

平和のための私たちの意見
「特定秘密保護法の制定に反対します」

不戦兵士市民の会

不戦兵士・市民の会は、第 185 回臨時国会(平成 25 年 10 月 15 日～12 月 6 日)で審議している「特定秘密保護法案」、「“日本版”国家安全保障会議創設法案」に反対します。また、「集団自衛権行使の容認」についても反対です。

かつての悲惨な戦争・戦場を体験して生き残った会員は 80 歳をはるかに超え、今、「再軍備への道」に突き進む日本国政府の姿を憂慮しております。特定秘密保護法は国民の知る権利を封じこみ、政府が国民を支配する恐ろしい道具です。

集団自衛権の行使が容認されると、アメリカの軍隊と共同した軍事行動に自衛隊を派遣することが可能となります。日本がこれまで堅持して来た「戦争行為の放棄」により築いてきた「平和の維持活動」が台無しになります。

＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝
	戦前、戦争反対の声は聞かれなかった。	
	天皇のために死ぬのが当たり前とっていた。	
	現政権の元、このままでは戦前と同じ状態となる。	
	今の時代、戦争を望まない人々の声がある。	
	人々が望まない方向には、安易には進まないと思う。	
	(会員、元兵士、91 歳)	
＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝

＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝
	「治安のため」に、政府は国民の安全に必要な情報を隠匿する？ (福島原発事故)	
	軍隊は国民を守らずに、国民を押しつけて戦争する？ (沖縄戦)	
	テロリストと呼ばれたらテロリスト、？誰が決める？ (イラクに大量破壊兵器なし)	
	外交官は、国益よりも省益、省益よりも利権？ (大使館に大量のワイン、絵画)	
	(会員、都民、55 歳)	
	＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝	